



本業を通じた貢献

生産技術・生産効率の向上

■ 生産基盤の強化

需要変動への迅速な対応力と安定供給の確保は、顧客からの信頼および事業継続を支える重要な基盤です。その実現に向けては、生産技術の高度化と効率化が不可欠であり、当社では「生産キャパシティ」の向上を持続的成長および競争力強化に直結する重要なマテリアリティと位置づけています。

2025年度は、コンパウンド・フィルム両製造本部に加えエンジニアリング部門が連携し、製造設備の増強や工程改善に向けた設備投資を着実に実行しました。加えて、グローバル拠点との連携による標準化活動を進め、「リケンスタンダード」^{*}の確立を通じて品質および生産体制の最適化を推進しています。2026年2月には、三重工場に新たに導入されたエラストマーコンパウンドの新ラインの稼働式が行われました。

マテリアリティ：生産技術・生産効率の向上

KPI	2025年度実績	2027年度目標
生産キャパシティ（単体）	（2021年度比） +9%	（2021年度比） +11%

■ 生産設備の自動化

当社は生産性向上と安定的な操業体制の構築に向け、生産設備の自動化を推進しています。新たに増設するラップ小巻工程においては、従来作業者が担っていた工程について、ロボットおよび自動搬送機を活用した自動化を進めています。これにより作業の省人化を実現し、人手不足への対応を

当日は社内外の多くの関係者が参列しました。

今後も現場起点の改善を継続し、生産基盤の強化に取り組んでいきます。



三重工場 エラストマーコンパウンド新ライン稼働式

※ リケンスタンダード：当社グループの製造におけるグローバルプロセス指針。海外への事業拡大に伴い、従来の国内を主眼とした製造プロセス指針からグローバルに対応した製造プロセス指針に改定したもの。

図るとともに、作業の標準化・効率化による生産性の向上に寄与しています。また、作業負荷の軽減やヒューマンエラーの低減にもつながり、品質の安定化および安全性の向上にも貢献しています。

今後も自動化の適用範囲を拡大し、持続可能な生産体制の強化を図っていきます。

製造担当の声

コンパウンド製造部（国内管理チーム）

あめみや しょう
雨宮 将

生産現場では、設備改善や工程見直しを通じて、生産性と品質の向上に日々取り組んでいます。現場に近い立場で生産能力や生産技術の現状を把握する中で、人材不足や熟練者のノウハウ継承といった課題を実感しました。現在は、設備の自動化による省人化や、動画教育による暗黙知の見える化、製造条件のデータ活用などに取り組んでいます。こうした改善がグローバル拠点と共有され、「リケンスタンダード」として定着していく過程にやりがいを感じています。今後も部門を越えて連携し、より効率的で安定した生産体制の実現に貢献していきたいと考えています。



■ 工場ユーティリティー設備の再構築

当社はエネルギー起源CO₂排出量の削減に向け、主要設備である蒸気ボイラおよび脱臭炉の燃料転換を推進しています。今後は従来のA重油焚き設備から都市ガス焚き設備へ転換することで燃焼効率の向上と燃料の低炭素化を図っていきます。また、省エネルギーのさらなる推進を目的として

熱回収式電動エアコンプレッサを導入し、蒸気ボイラから排出される廃熱を回収することを計画しています。回収した熱はボイラ給水の予熱に活用することで給水加温に必要な都市ガス使用量を削減し、省エネルギーおよびCO₂排出量の削減を実現します。

コンパウンド

複数素材のモルフォロジー制御、反応改質技術により、ますます広がる高機能材料へのニーズに対応します。お客様での加工適性を高めるため、最適な混練状態にてコンパウンドを提供しています。また、当社が長年培ってきた技術を活かし、最適な成形加工条件やお客様での成形不具合の改善提案をしています。これらの生産加工技術は、海外連結子会社の生産拠点でも継承されています。

フィルム

当社の熱可塑性樹脂の製膜技術は、フィルム表面の均質性や品質安定性が優れており、世界でも通用する技術力を有しています。また、多様なラミネート加工技術により、特性の違うフィルムをラミネートすることができます。フィルムの表面改質のためコーティング加工も行っており、汎用レベルから精密塗工までの塗工技術を保有しています。これらのフィルム製膜、ラミネート、塗工技術の総合的追求により、付加価値の高い機能性フィルムを提供しています。

